

鹿児島県

奄美市

「世界自然遺産」と
「縄文」が織りなす
環境文化経済
循環都市の実現



人口 40,965 人 面積 308.33 km²

都市の特長

奄美群島最大の島である奄美大島の中心地である。豊かな自然環境・生物多様性が評価され、2021年に世界自然遺産に登録された。また、奄美大島紬や黒糖焼酎といった地場産業も有名である。

奄美市

AMAMI CITY

観光×教育×環境
サステナブル・ハブ
整備事業

世界自然遺産に登録され観光客が増加している奄美市では、観光客の満足度向上を図ること、環境に負荷をかけない縄文型生活や貴重な自然と生物多様性を次世代に伝えることが必要になっている。「宇宿貝塚史跡公園」をSDGs推進の拠点として整備することで、縄文型生活の普及啓発を図り観光・教育・環境で相乗効果を生み出すとともに、多様な主体と連携するプラットフォーム活動の拠点としても活用する。

01 奄美市SDGs推進プラットフォーム運営事業

民間企業・市民・行政が一体となった「奄美市SDGs推進プラットフォーム」を設立し、会員相互による意見交換会や講演会、ワークショップを開催することで、オール奄美でSDGsに取り組み、パートナーシップによる目標達成を目指す。

また、SDGs推進パートナーの登録・表彰制度（「あまみSDGsアワード」）の構築や、子ども向け出前講座・ポスター展の開催により、SDGsへの関心が子どもから家庭、そして地域へ広がることを目指す。

表彰し普及展開



02 宇宿貝塚史跡公園拠点整備によるSDGs加速化事業

発掘された遺構を
そのまま展示



自然・動植物とそこに暮らす人々が共存・共生し、環境に負荷をかけない「縄文型生活」に加え、世界に誇る自然環境・生物多様性と深い歴史が共に歩むことで、新しい価値を創造する「環境文化」を同時に発信する拠点施設として「宇宿貝塚史跡公園」をリニューアルする。

宇宿貝塚史跡公園は、国史跡「宇宿貝塚」の真上に整備された施設であり、発掘調査で発見された遺構・遺物を調査の跡を埋め戻さず露出展示している。また、同公園内に「奄美市SDGs推進プラットフォーム」の活動拠点を設けることで、プラットフォーム活動の活性化を図る。

観光交流拠点
学校教育拠点
環境文化拠点
SDGs推進拠点

宇宿貝塚史跡公園
拠点整備(リニューアル)

奄美名物 鶏飯



奄美市の中心
名瀬



各取組の
詳細はこちら

取組 01



取組 02



01 環境に負荷をかけない縄文の生活様式を世界に発信



奄美市 総務部プロジェクト推進課
官民連携推進室長
中江 康仁 さん

この取組は庁内横断的な連携（文化財、観光、世界自然遺産、学校教育など）が必要で、これまでの縦割りの体制では実現が難しいものでした。そこで、プロジェクト推進課（SDGs担当部署）が舵取り役を担い、マネジメントを行うことで実現に至りました。

取組の推進により、市長をはじめ自身の周囲では縄文生活を見直すことの重要性が認識されつつあります。環境に負荷をかけない縄文の生活様式を世界に向けて発信していきたいです。



マングロープでの
カヤック

02 多様な関係者との協働の場を創出し、地域に活力を



合同会社AMAMIバリュープロデューズ
代表 林 晋太郎 さん

当社は、「奄美に新たな価値を創出する」を理念として、2022年6月に設立されました。現在は、スイーツの原材料となるバナラビーンズの栽培事業や飲食店の経営を行うことで、食と農の観点からSDGsを推進しています。

また、元国家公務員として政策立案やSDGs関連の業務に携わった経験を活かし、奄美市SDGs推進プラットフォームの会長を務めています。

この取組により、SDGsに関する取組・実施団体の活動が広くわかるようになり、団体同士の新たなつながりも生まれました。今後も自治体を含めた多様な関係者との協働の場を創出し、地域の活力を引き出していきたいです。

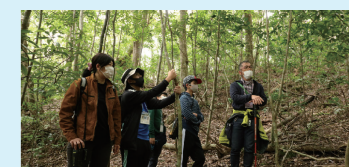
今後の展望

世界自然遺産に登録された豊かな自然環境や生物多様性、深い歴史が紡いできた「環境文化」を大切にしながら、地域の収益やエネルギーを地元で循環させる「経済循環」を併せて、「環境文化経済循環都市」を目指していく。このビジョンを通じて、持続可能で調和のとれたまちづくりを進めていく。

そのほかの
取り組み

奄美満喫ツアーの取組

「知って、来て、感じて奄美」をテーマに、奄美大島への誘客を図り観光交流人口の拡大につながる取組を行う。



「移・職・住」の総合対策

「移住」を含めた人材確保や就業環境の向上に向け、新たな住宅整備や空き家の賃借により、従業員用の住宅確保に取組む。



自然・動植物の保護

林道における夜間の車両利用ルール策定及びグリーンスローモビリティの実証により、野生生物の負荷軽減、交通事故、脱炭素対策に取組む。

